

好調新聞

Shuntō Shinbun



徳島市立
日吉西中学校
校長 志村 誠一郎
志村 誠一郎

本当にありがとうございました!

平成26年4月から始まった6年間!

好調新聞 終刊号の発行!

今回、離任式がなくなつてしまい、生徒・保護者のみなさんにきちんとお別れを言うことができませんので、今さらと思ふ気持ちもありましたが、今日は、最後の好調新聞で、お別れをしたいと思ふます。

また、地域の皆様方には、いつも温かく生徒たちを見守り、援助をいただきました。6年間お世話になりました。ありがとうございます。さようでした。

やはり好調新聞

振り返ってみると、平成26年4月に本校に着任してからの6年間は、あつという

間でした。私は、2年後の平成27年度末で、一度定年退職しましたが、そのまま再任用校長として残ることができました。再任用制度は、最長5年で、1年ごとに更新選考がある制度です。今年度のスタートの時に、「よし、こころで残れたのだから、あと2年間、日吉台西中で教員生活を終ることができるとの思いで毎日を通してきました。

今回、その予定が狂ってしまったので、残り少ない日々で、どうけじめをつけたらよいか悩みました。3月が近づくとつれ

て、やり残していたことが次から次へ出てきて、時間のな

い中、後悔と焦りの連続でした。辞めることを言えたら、もう少し違つたまとめ方ができたと思ひますが、私にはやはり「好調新聞」でまとめることが、自分らしいと思ひました。

そこで、創刊5周年記念特集を組み、密かにけじめをつけ始めたのです。なんとなく終わりと感じていた人もいると思ひます。

そんな中、今回の新型コロナウイルスにより、突然学校が臨時休業となつてしまい、さらに窮地に陥りました。

5周年記念特集

5周年記念特集は、2月21日発行の第24号からスタートしま

した。この時に、3月25日までのプログラムを考え、第30号を発行して校長として締めくくることができました。24号から30号まで、同時進行で作り始めました。

ところが、新型コロナウイルスの影響で、学校の臨時休業が決まり、当然、好調新聞を発行する機会を失うことになりました。

そして、卒業証書授与式を絶対に行うことだけを考えました。教職員全員で「やれるだけのことをやろう」と準備をしました。



準備が整い、卒業生をまっています

会場等の準備は、職員が一丸となつて、感染予防対策を考慮して、清掃や式場準備、教室の環境整備など、幸いにも時間が十分あったので、思いを込めながら行いました。

創刊5周年記念特集 第1弾!

平成27年4月14日創刊から96号410面!

好調新聞

5周年の記念特集

卒業証書授与式

私は、いつもみんなに言っているように、私なりに私ができることをやりました。今回は、例年の「学校長のことば」でのピアノ演奏に加えて、吹奏楽部の演奏がなかったため、入場曲と国歌の伴奏、卒業生巣立ちのことばのBGM、退場曲を引き受けました。普通だったら、「校長が何をやっているんだ」となるころでしたが、職員が賛成してくれたので良かったです。

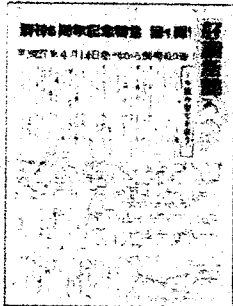


「学校長のことば」でのピアノ演奏

私にできることは最大限やりました。卒業生は喜んでくれたのではないかと思うと同時に、やはり音楽は強い力をもっている、なくてはならない物だと、改めて感じました。卒業おめでとうございました。

式の様子は、好調新聞第27号で紹介しましたが、本当にやるべきことができて良かったと思っています。

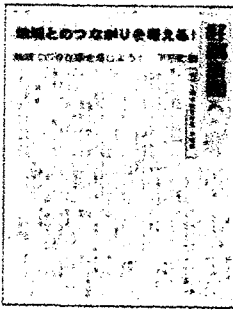
96号410面の中で



好調新聞の5周年記念特集に話を戻します。第24号では、好調新聞の5年間を追うことで、振り返りました。5年間で発行した好調新聞は、

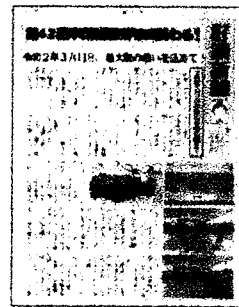
その時点で96号になりました。振り返りは、年度ごとの発行号数と作成面数で行いました。また、5年間で変わったところを40周年記念リーフレットの40年間の歩みの続編として2・3面にまとめました。

予定では、この後、2度の防球ネット改修やエレベーター設置、森戸原第2公園の大きなもみの木が台風で倒れて伐採されたこと、武蔵小杉の高層マンション群が増えた様子なども載せる予定でした。

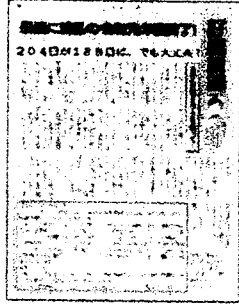


好調新聞の5周年記念特集に話を戻します。第25号と第26号では、私が大切にしてきた地域との連携の中で、どう変化してきたかを、地図と写

真を使って表しました。



第27号では、前述した通り、卒業式に参加することができなかった在校生と保護者・地域のみなさんへ、今回の条件の中で、どこよりも良い卒業式ができたという思いを伝えようと思いました。



そして、最後の28号では、新コロにより年間授業日数が204日から188日になってしまったこと。これまでどうしても採りあげたかったグリー

ンラインはリニアエターカー。私が朝会や好調新聞、学校だよりで採りあげることが多かった「異常気象」でのかながわ気候非常事態宣言を採りあげ、最終号となりました。

えっ、何それ？

さて、私自身のことを振り返って見ます。平成26年4月1日、都筑区にある都田西小学校から着任しました。この時は、副校長さんも同時に代わり、さらに二人とも小学校からの転任だったので、教職員のみなさんはとても不安に思っていたと思います。二人とも、この時のPTA会長さん副会長さんに助けてもらいました。感謝しています。

私も、小学校に7年間いたため、久しぶりの中学校に戸惑

いを感じていたも事実でした。でも、そこを露わにしてしまうと、先生方が余計に不安に思ってしまうので、できるだけ出さないようにしていったつもりですが、思えば、小学校に副校長として初めて赴任して、同じ義務教育の学校でも、こんなに違うんだと思いつつ、何それ？」の連発をしていました。それでも知らないことを知ると言うことはとても新鮮で、毎日楽しく仕事をしていました。

本校に来たときも、今度は逆に、中学校のことを忘れていて、「えっ、何それ？」の連発でした。久々の中学校でも、とても新鮮でした。

校長として10年

校長としての生活は、前任校と合わせて10年間になりました。その間、重きをおいてきたのが「地域連携」と「情報発信」でした。

本校に着任して、4月5日、まず、「学校だより」をそれまでの西中の形式を踏襲し、「西中通信」として出しました。

次に、前任校でも取り組んできた、校長レポートにも着手しました。校長レポートは、写真によって構成しているのです。印刷には向きません。校長室前に掲示し、職員室に来る来客や生徒が見ていました。掲示板は、メッセージボードの他に、拡大版に合わせた物を作りしました。一年間は、この2

つのツールを使って情報発信をしていましたが、満足はしていませんでした。

好調新聞の構想は、校長になったときから考えていて、前任校で2号ほど発行していました。

西中に来て、たまに、新聞作成ソフトとインクジェットプリンターが職員室の片隅においてあり、しばらく様子を見ていました。誰も使わず邪魔扱いされていたので、校長室で引き取りました。

しばらくのために使っていて、これなら何とかできると思い、2年目から、学級通信の感覚で、校長室だより「好調新聞」をスタートしました。

なぜ「好調」にしたかという点、構想の時から思いで、私が調子の良い(ネタがある)時にだけ出すことにしたからです。

はじめは、学校だよりと違って、生徒への発信だけにしました。その後少しづつ配布範囲を広げ、保護者や地域への情報発信に取り組んできました。

その後、3つのツールを維持して行くことになりました。学校便りは、毎月定期的な続け、校長レポートは、写真が見やすいので、生徒たちには好評でした。

私から、生徒に向けたメッセージとして、この新聞を出すことにしました。不定期の刊行ですが、日常のみんなの頑張っている姿を、全校生徒に伝えたいの思いから、書いてみることにしました。基本的に、私が実際に参加したり、見たことのみを扱っていきますので、ご理解ください。

校長レポートから新聞へ!



3つのツールは、左のように、ねらいをきちんと明確にして、3年間続けました。

校長レポートも好調新聞も、生徒たちの頑張りや全校生徒に伝えることや目立たない活動を紹介するなど、狙っていることは同じでしたが、

「説明がしつかりできること」「印刷して配れること」「保護者や地域への発信に向いていること」で、保護者や地域の方の反応が励みになり、徐々に好調新聞の発行が増えていきました。そして、平成29年度を境に、好調新聞が主になりました。

好調新聞に移行したことで、情報発信生徒の大募集?



また、好調新聞は、生徒募集にも活用しました。「公立学校になぜ生徒募集が?」ですが、生徒数の減少を止めたかったからです。

私の着任した26年度は41名でしたが、31年度には38名まで減ってしまいました。その減り方が、学区の児童数の減少より大きくなっていました。です。もともと、私立に抜ける率が高い学区でしたが、ここ2年間に急激に高くなっていたのです。そこで、生徒大募集を始めました。

3つの中よりのねらい
「学校便り」は、原則月一回発行で、私から(一部副校長)のその月の話題やメッセージ、行事の紹介、活動報告、翌月の予定などを取り上げています。全校及び地域の方にも配布しています。また、正門のメッセージボードにカラーの拡大版を掲示しています。
「校長レポート」は、私が実際に参加した行事や部活動、地域行事などを、全校生徒に、写真を使って紹介するもので、ほとんど写真によって構成していますので、校長室前にフルカラー印刷したものを掲示しています。
「好調新聞」は、私が記者となつて、行告事や日頃の学校の様子、部活動からの報告などを新聞形式で紹介するもので、全校及び地域の方に配布しています。こちらと写真が多くなっているので、校長室前のメッセージボードに拡大カラー版を掲示しています。

また、好調新聞は、生徒募集にも活用しました。「公立学校になぜ生徒募集が?」ですが、生徒数の減少を止めたかったからです。

具体的には、小中の連携の取組だけをごなすのではなく、好調新聞で小中連携特集を組み、学校の良さを直接児童にアピールをしました。保護者には、好調新聞の拡大カラー版を作り、両小学校に掲示してもらい、見る機会を設けました。私自身も機会があるたびに出向いたり、本校の土曜参観に4年生以上の小学生と保護者に案内を出したりして、西中の良さをアピールするようにしました。

生徒一人ひとりの活躍に感謝

この好調新聞のねらいは、何度も書いていますが、生徒一人ひとりのあまり知られていない頑張りまで、知ってほしいとの思いがありました。本校の部活動はほとんどの人が参加していて、令和元年度の加入率は86・3%でした。その部活動も、何かの大会で優勝したなどは、朝会などの表彰でみんなが知ることができませんが、1回戦で負けながらも頑張りがあったんだ、ということが素晴らしいことだ、と伝えることが大切だと考え、自分取材に行くこともしました。何より普

続けてくださったことも大きく影響していると思います。ありがとうございます。この練習を見ている顧問の先生の目線が、見えないところまで紹介できると思

段の練習を見ている顧問の先生の目線が、見えないところまで紹介できると思

バスケットボール部。私が最初に目にしたのは、グリーンコートでの練習開始前に、みんなが丁寧にぞうきんがけをしている姿に感動しました。そして、私が

バスケットボール部。私が最初に目にしたのは、グリーンコートでの練習開始前に、みんなが丁寧にぞうきんがけをしている姿に感動しました。そして、私が

バスケットボール部。私が最初に目にしたのは、グリーンコートでの練習開始前に、みんなが丁寧にぞうきんがけをしている姿に感動しました。そして、私が

バスケットボール部。私が最初に目にしたのは、グリーンコートでの練習開始前に、みんなが丁寧にぞうきんがけをしている姿に感動しました。そして、私が

バスケットボール部。私が最初に目にしたのは、グリーンコートでの練習開始前に、みんなが丁寧にぞうきんがけをしている姿に感動しました。そして、私が

バスケットボール部。私が最初に目にしたのは、グリーンコートでの練習開始前に、みんなが丁寧にぞうきんがけをしている姿に感動しました。そして、私が

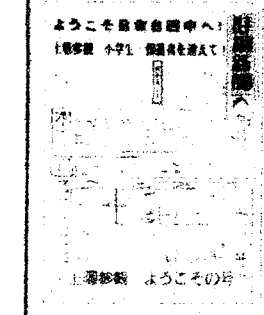
バスケットボール部。私が最初に目にしたのは、グリーンコートでの練習開始前に、みんなが丁寧にぞうきんがけをしている姿に感動しました。そして、私が

年の台風でグリーンコートが倒壊して使えなくなっってしまった、時間がかかってしまいました。が、新しくできてほしいです。ソフトテニス部とバレーボール部、今思い返すと、どちらももつぎさなくて良かったと思つています。本校のように生徒数が減っていると、部活動の数を減らさないと、顧問や部員数が減り、成り立たなくなつてしまいます。そんな中で、2年前女子ソフトテニス部とバレー部が、3年生の卒業後、1年生の少人数のみになり、新入部員の募集をどうしようかと悩みましたが、次の学年に望みをつなぎ、残すことにしました。その後、新入部が増え、水泳部、関東大会

に2度出場し、相模原に応援にも行くことができました。野球部、春の市大会でベスト3に入り、校長レポートでも報告しました。ホームベースマーカーを作らせてもらいました。野球部で忘れて名ないのが、下田町運動会での「下田ソーラン」です。地域への貢献を担ってくれています。サッカー部、苦勞した末に県大会に出場しました。校長レポートで詳しく報告しました。バドミントン部も、県大会に応援に行き、校長レポートで報告しました。

茶道部、地味な活動ですが、着実に地域に根ざしています。長く続いている「夏茶会」の他にも、下田ケアプラザの敬老週間でのお手前、高

年齢の方々、とても嬉しそうにお茶を飲み、話をしたり、歌を歌ったりしている姿が、とても感動しました。美術部、公園の壁画制作、ありがとうございます。一度目の森戸原第二公園では、港北区土木事務所の手違いで、日吉台中に話を持って行つてしまい、「それはないだろう!」と抗議をし、横山区長も応援してくれました。台中生が準備を始めてしまつていた状況を考慮し、半分ずつ書くことになりました。すてきな壁画ありがとうございます。



吹奏楽部、文化祭や定期演奏会に振られてくれてとても楽しかったです。昨年度の卒業式では、念願のフィンランディアも振ることができ、とても思い出になっています。これから、心を一つにして音楽を楽しみ、素晴らしい西中サウンドを追求してください。

最後に演劇部、この学校に来て、初めて演劇に関わりました。大道具づくりは、とても楽しく、部員がとても喜んでくれて、最高でした。本当に楽しかったです。また、地域での活躍も定着してきました。

初めは、吹奏楽部も出演しましたが、日吉地区社会福祉協議会主催の「光と活力」福祉実践発表会に出演し、インフルエンザによる急な演目の変更にも関わらず、素晴らしい上演をして、公表を得ました。

また、もう7年以上続いている日吉本町西町会の豆まき、毎年オリジナルの劇を披露し、お手伝いもするという活躍でした。

さらに、下田ケアプラザの認知症サポーター養成講座では、認知症理解を披露し、良い環境をいただき、2度の出演の機会をいただきました。

このように、本校の地域での活躍の大きな力となってくれました。

また、もう7年以上続いている日吉本町西町会の豆まき、毎年オリジナルの劇を披露し、お手伝いもするという活躍でした。

さらに、下田ケアプラザの認知症サポーター養成講座では、認知症理解を披露し、良い環境をいただき、2度の出演の機会をいただきました。



お別れのメッセージ

ご挨拶もできずと異動と地がなりました。ありがとうございます。本当に楽しい9年間を過ごさせていただきました。日吉台西中学校のますますのご発展をお祈りしております。ありがとうございました。

演劇部顧問 田村 麻由子

離任にあたって

第14代校長 志村 誠一郎

おはようございます。前校長の志村です。日吉台西中学校の2年生・3年生のみなさん、進級おめでとうございます。今回、校長を退職し、新たにハートフルームで働くことになりました。今回は、離任式がなくなってしまいましたので、お別れを言うことができなくてとても残念です。かわりにこの手紙を書きました。

今回、退職となってしまう、非常に残念な思いと、けじめをつけずに日吉台西中を去らなければならないことを、とても悔しく思っています。特に、3年生には思い入れがあります。2年前入学式で皆さんを迎えた時に、この生徒たちと3年間過ごして、一緒に日吉台西中学校を卒業しようと思っていたので、そういう意味でも残念です。

西中での6年間は、みなさんのおかげで、とても楽しい生活を送ることができました。西中の6年間、私が言い続けてきたのが「頑張ることは誰でもできる」でした。西中の活動の中では、全校や学級、学年、部活など、大小さまざまな集団の中で一緒に取り組む活動をしてきました。人それぞれ得意・不得意・好き・嫌いがあり、持っている力はみんな違います。その中で、誰にでも同じにできることが「頑張る」です。「頑張る」とは、自分のもっている力を信じて、全力で行動することです。

そして、最も大切なことは、この違いを認め合うことです。人それぞれ同じ事を同じように頑張っても、当然、その姿や結果はみんな違います。その違いをお互いに認め合い理解して気持ちを合わせ、集団としての力を発揮することができるのです。そして、お互いの違いを認め合う事の大切さを何よりも感じてくれ、実践してくれているのが西中の生徒の良いところだと思っています。

この良さを別の言い方をすると「みんなやさしい」のです。それで、一人ひとりが楽しく学校生活を送ることができているのです。行事をやっても感動を与えてくれているのです。その良さを忘れずに、新型コロナウイルスに負けずに、もっともっと笑顔のあふれる素晴らしい西中にしていってください。お世話になりました。ありがとうございました。またどこかで会いましょう。

さようなら。

令和2年4月7日

